

—茨城県土浦市—

前神田遺跡・大畑本田遺跡

—令和2年度 市内遺跡発掘調査報告書—

前神田遺跡・大畑本田遺跡

—令和2年度 市内遺跡発掘調査報告書—

二〇二〇

土浦市教育委員会

2023

土浦市教育委員会

—茨城県土浦市—

前神田遺跡・大畠本田遺跡

—令和2年度 市内遺跡発掘調査報告書—

2023

土浦市教育委員会

序

土浦市は、霞ヶ浦や桜川といった自然環境に恵まれた都市です。貝塚や古墳など数多くの遺跡が立地し、古くから人々の暮らしが営まれてきました。これらの遺跡は、昔の生活や文化を現代の私たちに伝えてくれる貴重な遺産といえます。このような貴重な文化遺産を保護し後世に伝えることは、土浦市の重要な責務であり、郷土の発展のためにも大切なことです。

本書は、令和2年度に行われた2つの発掘調査の報告書です。前神田遺跡は市道改良工事に、大畠本田遺跡は個人住宅建築工事に伴い発掘調査が行われました。本書が、学術的な研究資料としてはもちろんのこと、土浦市の歴史と文化の究明に役立つことができれば幸いです。

最後に、調査から報告書刊行にあたり関係者の皆様からいただいた様々なご協力とご支援に対しまして、心から厚く御礼を申し上げます。

令和5年3月

土浦市教育委員会
教育長 入野 浩美

例言

1. 本書は、土浦市教育委員会が実施した市道改良工事に伴う前神田遺跡と、個人住宅建築に伴う大畠本田遺跡の発掘調査報告書である。両遺跡とも第1次の調査である。
2. 現地の発掘調査は、以下の体制で実施した（所属は令和2～4年度当時）。

前神田遺跡（約117m ² ） 調査期間：令和2年12月3日～ 同年12月15日	主任調査員：比毛君男（上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員） 関口満（土浦市教育委員会文化振興課学芸員） 調査員：荒井美香（上高津貝塚ふるさと歴史の広場職員）
大畠本田遺跡（約4m ² ） 調査期間：令和3年3月23日～ 同年3月27日	主任調査員：比毛君男、関口満
整理作業：令和4年度実施	比毛君男、石田温美・浅野孝利・小林圭子・高梨智恵子（土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場職員）

3. 本書の執筆分担は以下のとおりである。編集は比毛が行い、浅野孝利（令和4年度上高津貝塚ふるさと歴史の広場職員）が補佐した。
第1章・第5章：比毛 第2章：浅野 第3章・第4章：遺物を浅野、遺物以外は比毛
写真図版作成：遺構を比毛、遺物を浅野 製図：石田
 4. 本遺跡調査に關係する資料は、すべて上高津貝塚ふるさと歴史の広場にて保管している。遺物の記録や整理・保管に際し、前神田遺跡は「KMA1」、大畠本田遺跡は「OOH1」の略称を使用する。
 5. 発掘調査から報告書刊行に至るまで、次の方々及び諸機関からご助言ご協力を賜った。記して感謝の意を表したい。（敬称略 五十音順）。
- 茨城県教育庁総務企画部文化課 土浦市建設部道路管理課 日和建設株式会社

凡例

1. 遺構の略称に使用した記号は以下の通りである。
堅穴建物跡：SI 掘立柱建物跡：SB 土坑：SK 不明遺構：SX 搅乱：K ピット・柱穴・貯蔵穴：P
2. 遺物の実測図中、土師器の黒色処理された箇所は [] で表記している。
3. 遺構・遺物の記述は以下の原則とした。
 - (1) 水糸レベルは海拔高度（m）を示す。
 - (2) 遺物番号は本文・挿図・写真図版とも一致する。
 - (3) 調査区全体図は1/500または1/50、遺構実測図は1/50または1/100、遺物実測図は1/3の縮尺で掲載し、スケールで表示した。
 - (4) 堅穴建物跡の「主軸」は原則カマドまたは炉を通る軸線とし、主軸方向はその他の遺構と同様に長軸（径）方向が座標北からどの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。
 - (5) 遺物の観察表の法量は、A：口径、B：器高、C：底径、（ ）が現存値、〔 〕が復元値を表す。胎土の表記は肉眼観察の結果、確認できた鉱物を記した。
 - (6) 遺物の色調は、『新版標準土色帖』（小川正忠・竹原秀雄編著 2002 日本色研事業株式会社）を使用した。

目 次

序 例言 凡例 目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第2章 環境	2
第3章 前神田遺跡	5
第4章 大畠本田遺跡	12
第5章 総括	15

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1図 土浦市周辺の地形	2	第8図 第4号竪穴建物跡・第1号不明遺構	9
第2図 神立町地区の遺跡分布図	3	第9図 第1号掘立柱建物跡・土坑群	9
第3図 大畠地区の遺跡分布図	4	第10図 第2号土坑	10
第4図 前神田遺跡調査区位置図	5	第11図 大畠本田遺跡調査区位置図	12
第5図 前神田遺跡調査区全体図	6	第12図 大畠本田遺跡調査区全体図	13
第6図 第1・2・3号竪穴建物跡・第1号土坑	6	第13図 大畠本田遺跡出土遺物	14
第7図 前神田遺跡第1号竪穴建物跡出土遺物	7		

表目次

第1表 神立町地区周辺遺跡一覧表	3	第3表 前神田遺跡第1号竪穴建物跡出土遺物観察表	7
第2表 大畠地区周辺遺跡一覧表	4	第4表 大畠本田遺跡出土遺物観察表	14

写真図版目次

PL1 前神田遺跡発掘調査 (1)	
PL2 前神田遺跡発掘調査 (2)	
PL3 大畠本田遺跡発掘調査	
PL4 前神田遺跡・大畠本田遺跡出土遺物	

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 前神田遺跡

当遺跡の発掘調査は、土浦市建設部道路建設課が計画する市道I級5号線（西）改良工事に伴うものである。令和2年4～5月にかけて土浦市教育委員会（以下市教委と略）文化振興課が市役所各課に対し、当該年度事業に係る埋蔵文化財取扱の有無を照会したところ、道路建設課は当工事の計画予定を回答した。事業予定地が周知の遺跡前神田遺跡（市遺跡番号203-194）に該当するため、以後道路建設課と文化振興課間で協議を行い、工事前に試掘確認調査が必要であることを確認した。

令和2年11月6日に試掘確認調査を実施し、竪穴建物3棟（うち1棟は平安時代）と土坑8基を発見した。以後両課で発見された埋蔵文化財の保存協議を行い、道路建設課が発掘調査の費用を負担し、市教委が記録保存目的の発掘調査を行い、次年度以降整理作業を行うこととした。

文化財保護法第94条に基づく発掘の通知は、令和2年11月18日付土教委発第1133号にて市教委から茨城県教育委員会（以下県教委と略）に進達した。これを受け県教委は、事業者たる土浦市長に対し令和2年12月2日付文第2638号で発掘調査の実施を通知した。

発掘調査は令和2年12月3日から開始し、市教委は12月2日付土教委発1181-2号で県教委に発掘調査の着手を報告した。調査は12月15日まで実施され、市教委は12月18日付土教委発1254号で県教委に発掘調査終了確認を依頼した。県教委は令和3年1月13日付文第3002号で発掘調査の終了確認を通知した。埋蔵物発見届は、市教委により令和2年12月18日付土教委発1253号で土浦警察署に提出された。県教委は市教委に対し、令和3年1月25日付文第3126号で埋蔵物の文化財認定を通知した。整理作業は令和4年度に実施した。

第2節 大畠本田遺跡

当遺跡の発掘調査は、個人事業主による自己用住宅建築工事に伴うものである。市教委文化振興課の事前の照会の結果、事業地が周知の遺跡大畠本田遺跡（史跡番号465-128）に該当するため、事業者は令和2年12月18日に埋蔵文化財試掘確認調査依頼書を提出した。

令和3年1月7日に試掘確認調査を実施し、縄文時代中期の竪穴建物4棟を発見した。以後事業者と発見された埋蔵文化財の保存協議を行い、建物本体は地下保存されるが合併浄化槽部分は掘削深度が深いため、市教委による記録保存目的の発掘調査を行うことで同意した。

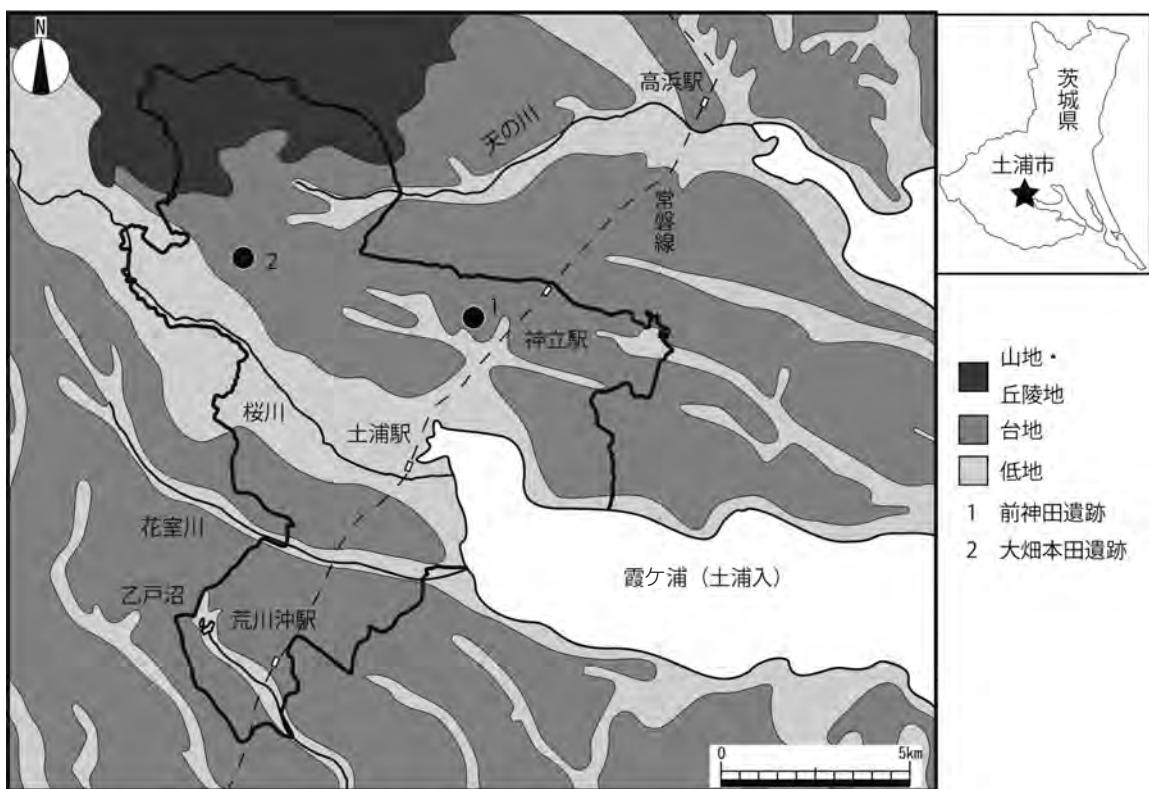
文化財保護法第93条に基づく発掘の届出は、令和3年2月12日付土教委発第198号で市教委から県教委に進達した。これを受け県教委は事業者に対し、令和3年3月3日付文第3595号で合併浄化槽部分は発掘調査を行い、その他の工事へは立会調査を実施するように通知した。

発掘調査は令和3年3月23日から開始し、市教委は3月24日付土教委発370号で県教委に発掘調査の着手を報告した。調査は3月27日まで実施され、市教委は3月31日付土教委発397-7号で県教委に発掘調査終了確認を依頼した。県教委は令和3年4月8日付文第68号で発掘調査の終了確認を通知した。埋蔵物発見届は、市教委により令和3年3月31日付土教委発397-8号で土浦警察署に提出された。県教委は市教委に対し、令和3年6月10日付文第787号で埋蔵物の文化財認定を通知した。整理作業は令和4年度に実施した。

第2章 環境

第1節 地理的環境と層序（第1図）

前神田遺跡は茨城県土浦市神立町に、大畠本田遺跡は同市大畠にそれぞれ所在する。土浦市は茨城県南部に位置し、東側は土浦入りで霞ヶ浦に接する。市域の地形は台地と低地に大きく分けられ、台地は市内中央を流れる桜川低地を境として、北に新治台地、南に筑波稻敷台地が分布する。本書で報告する2遺跡は、桜川左岸から霞ヶ浦土浦入り北岸にかけての標高約20～30m程度の新治台地上に立地する。前者は境川が開析した霞ヶ浦へ通じる大きな谷に面した台地の南端に位置し、後者は桜川左岸に大きく貫入する谷戸に面した台地南端に位置する。調査前は両者とも畠地である。



第1図 土浦市周辺の地形

（20万分の1 土地分類基本調査『茨城』をトレース、改変）

第2節 歴史的環境

本節では、両遺跡が所在する神立町地区と大畠地区についてそれぞれ通時的な遺跡の消長を述べる。

1. 神立町地区（第2図、第1表）

前神田遺跡（1）が所在する神立町地区では、分布調査等によりいくつかの遺跡が知られている。

縄文時代は、中道遺跡（2）において早期の縄文土器が採集されている。青木遺跡（9）では前期の土器片が採集されている。中期は蟹久保遺跡（3）、神立八幡遺跡（8）においてそれぞれ土器片が採

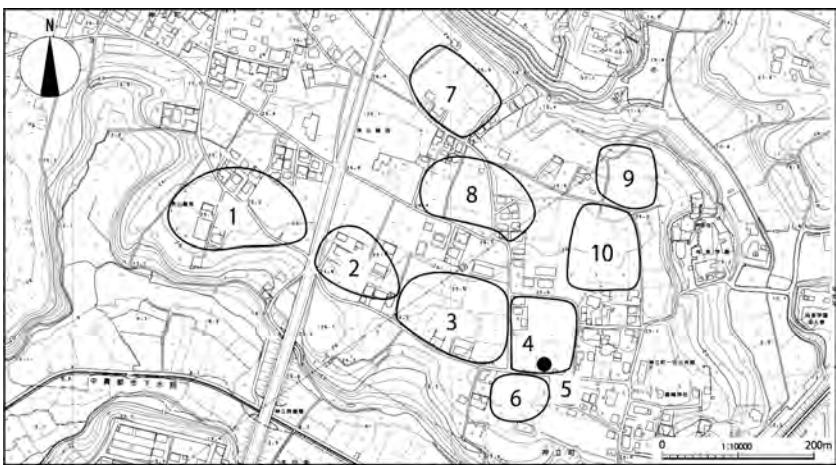
集されている。試掘確認調査の結果、坪内遺跡（4）・天神平遺跡（10）からは堅穴建物跡が約20棟、坪内貝塚（5）では加曽利E式期の堅穴建物跡が6棟、土坑が1基検出されており、堅穴建物内からはハマグリ主体の貝塚が確認されている。後期は花輪遺跡（6）、神立八幡遺跡（8）において土器片が採

集されているが、遺構は検出されていない。

古墳時代では松山遺跡（7）、天神平遺跡（10）から土師器片が採集されている。

奈良・平安時代では神立八幡遺跡（8）、青木遺跡（9）、天神平遺跡（10）から土師器片、須恵器片が出土している。中道遺跡（2）からは堅穴建物跡が検出されている。

中世は、中道遺跡（2）から陶器片が、松山遺跡（7）から内耳鍋が出土しているが、遺構は検出されていない。



第2図 神立町地区の遺跡分布図（1:1000）

第1表 神立町地区周辺遺跡一覧表

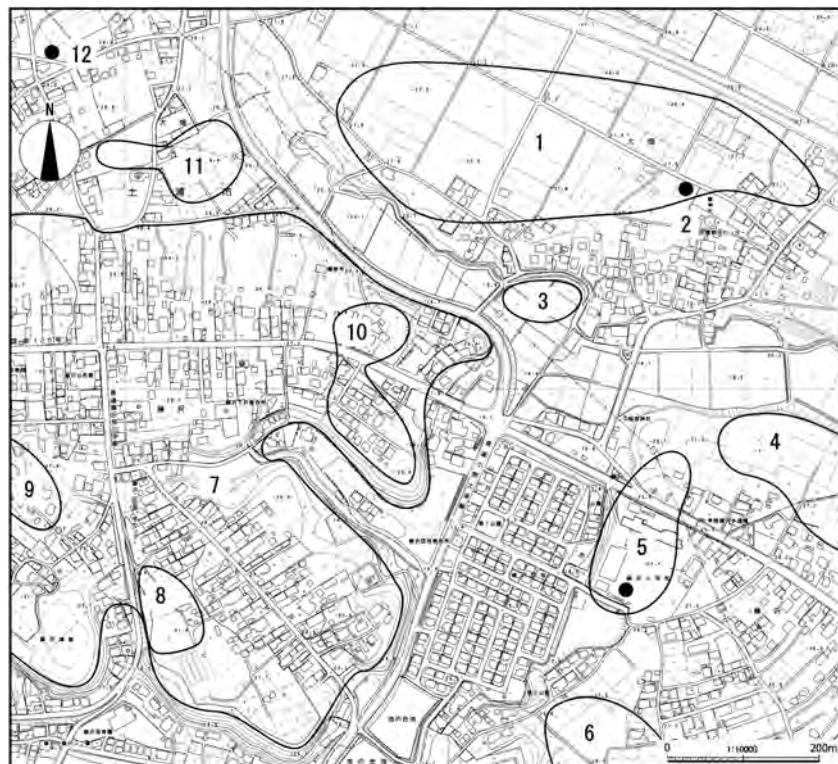
番号	遺跡番号	遺跡名	時代
1	203-194	前神田遺跡	奈良平安
2	203-193	中道遺跡	縄文・奈良平安・中世
3	203-192	蟹久保遺跡	縄文
4	203-190	坪内遺跡	縄文
5	203-283	坪内貝塚	縄文
6	203-191	花輪遺跡	縄文
7	203-187	松山遺跡	縄文・古墳・中世
8	203-188	神立八幡遺跡	縄文・奈良平安
9	203-186	青木遺跡	縄文・奈良平安
10	203-189	天神平遺跡	縄文・古墳・奈良平安

2. 大畠地区（第3図、第2表）

大畠本田遺跡（1）がある大畠地区は、分布調査や試掘調査によつていくつかの遺跡が知られている。

縄文時代には中期を中心とした遺跡分布が認められる。大畠本田遺跡内に存在する大畠本田貝塚（2）では、中期から後期にかけての土器片や骨角器が採集されている。大畠前田遺跡（3）では中期から後期にかけての土器片のほか礫石器が多数出土している。藤沢東町遺跡（4）からは中期から後期にかけての土器片が出土しているほか、堅穴建物や土坑が検出されている。藤沢山後遺跡（11）からは加曽利E式期の堅穴建物跡が1軒検出されており、大型の台石が出土している。藤沢北斗遺跡（10）からは前期から後期にかけての、藤沢南裏遺跡（8）では中期の、藤沢中城遺跡（9）では中期から後期にかけての土器片がそれぞれ採集されている。

古墳時代では、藤沢東町古墳群（5）に円墳2基（うち1基は湮滅）が存在し、隣接する藤沢東町遺跡（4）からは土師器片が出土している。高岡愛宕塚古墳（12）は既に湮滅しており詳細は不明である。藤沢北斗遺跡（10）、藤沢南原遺跡（6）、藤沢山後遺跡（11）、藤沢南裏遺跡（8）では土師器片が出土している。藤沢中城遺跡（9）では土師器片のほか埴輪片が出土している。



第3図 大畠地区の遺跡分布図 (1:1000)

奈良・平安時代には、大畠前田遺跡（3）、藤沢南原遺跡（6）、藤沢南裏遺跡（8）から須恵器片が、藤沢山後遺跡（11）、藤沢中城遺跡（9）から土師器片が出土している。

中世では、藤沢城跡（7）に堀や土塁、物見櫓跡が残る。大畠前田遺跡（3）、藤沢東町遺跡（4）から陶器片が、藤沢山後遺跡（11）、藤沢南裏遺跡（8）、藤沢中城遺跡（9）からは土師質土器片が出土している。

第2表 大畠地区周辺遺跡一覧表

番号	遺跡番号	遺跡名	時代
1	465-128	大畠本田遺跡	縄文・古墳・中世
2	465-114	大畠本田貝塚	縄文
3	465-129	大畠前田遺跡	縄文・奈良平安・中世
4	465-015	藤沢東町遺跡	縄文・古墳・中世
5	465-101	藤沢東町古墳群	古墳
6	465-012	藤沢南原遺跡	古墳・奈良平安
7	465-019	藤沢城跡	中世・近世
8	465-126	藤沢南裏遺跡	縄文・古墳・奈良平安・中世
9	465-127	藤沢中城遺跡	縄文・古墳・奈良平安・中世
10	465-125	藤沢北斗遺跡	縄文・古墳
11	465-124	藤沢山後遺跡	縄文・古墳・奈良平安・中世
12	465-132	高岡愛宕塚古墳	古墳

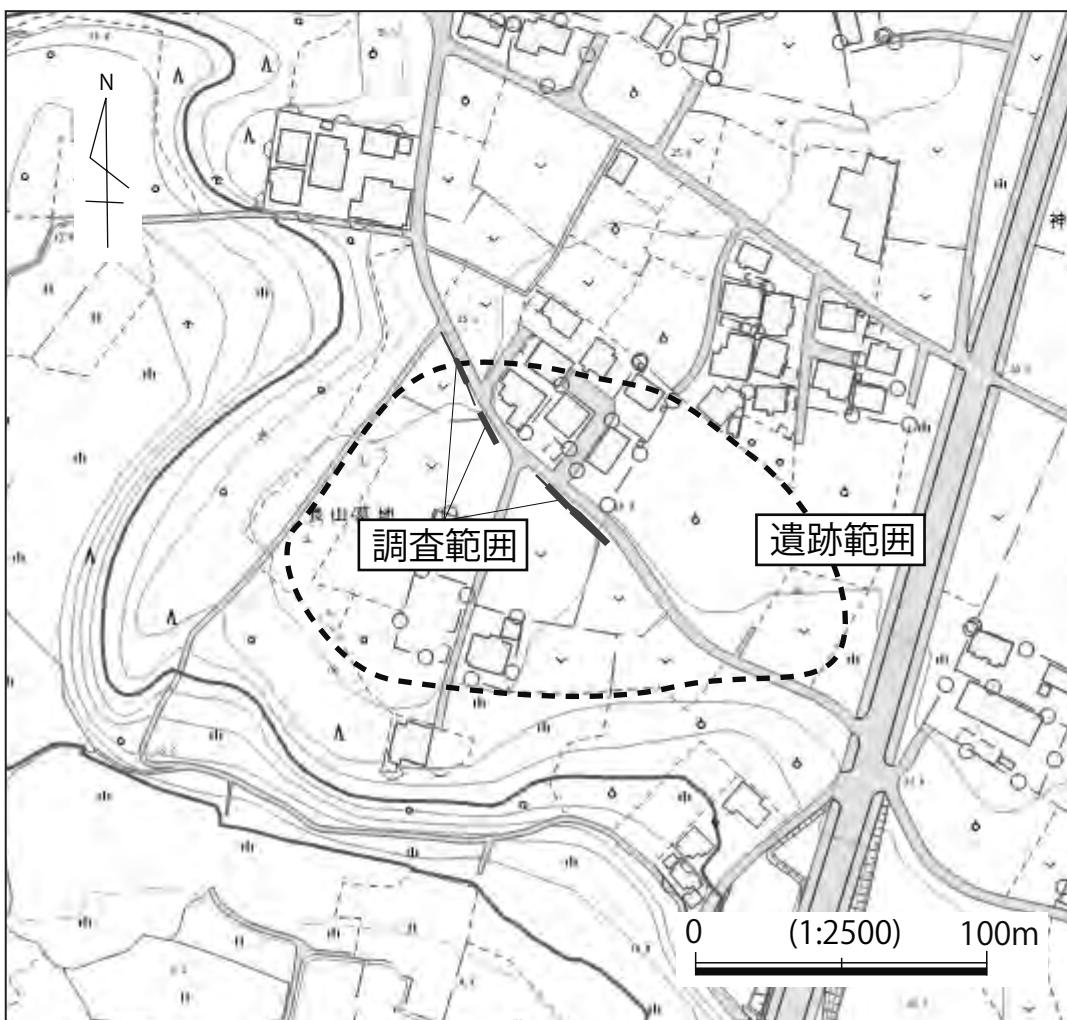
引用・参考文献（敬称略、50音順）

- 茨城大学人文学部史学第6研究室 1984『土浦の遺跡 一埋蔵文化財包蔵地一』土浦市教育委員会
 宇野沢昭・磯部一洋・遠藤秀則・田口雄作・永井茂・石井武政・相模輝雄・岡重文 1988『2万5千分の1 筑波研究学園都市及び周辺地域の環境地質図』地質調査所
 新治村史編纂委員会 1986『図説新治村史』新治村教育委員会

第3章 前神田遺跡

第1節 調査の概要

本調査は市道I級5号線(西)改良工事に伴うものである(第1章参照)。試掘確認調査の結果から、道路拡幅部分に第1調査区(2.2×9m)、第2調査区(2.2×11.5m)、第3調査区(2.2×25m)を設定した(第4図)。表土除去は重機で行い、関東ローム層上面を遺構確認面とした。調査の結果、平安時代の竪穴建物跡4軒、掘立柱建物跡1棟、土坑7基、不明遺構1基を検出した。



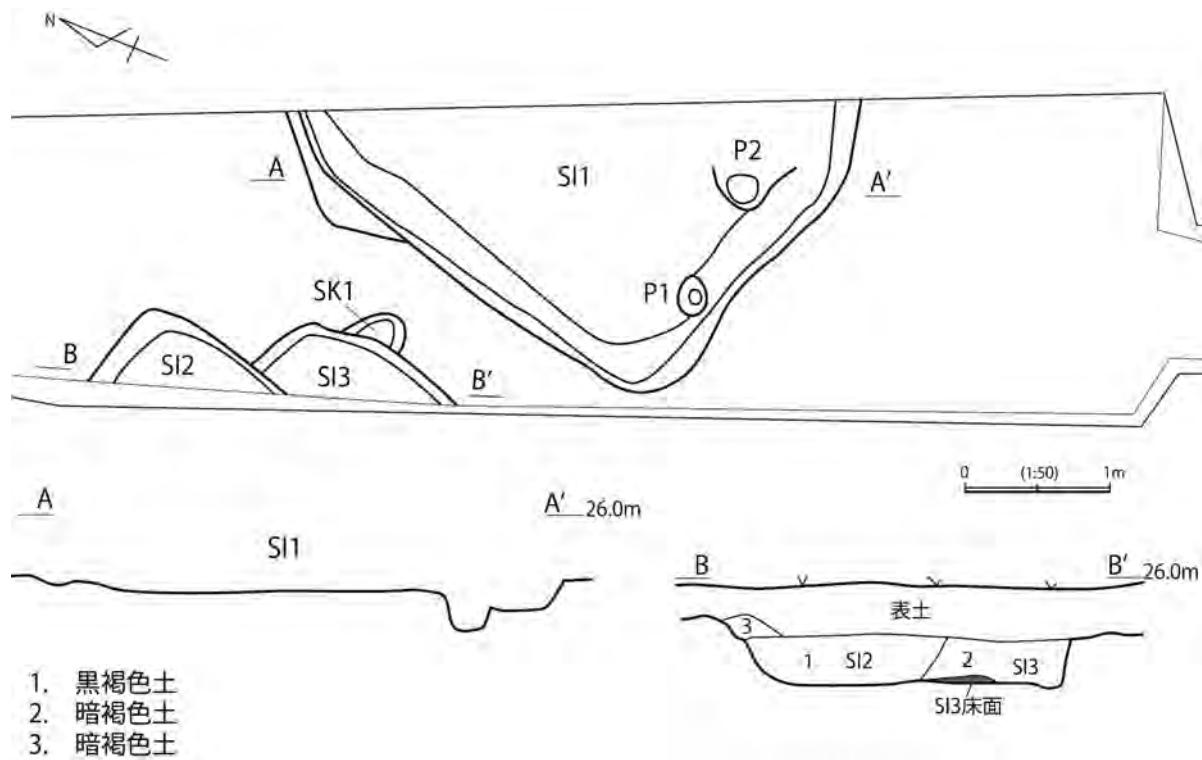
第4図 前神田遺跡調査区位置図 (2,500分の1 土浦市都市計画図を利用)



第5図 前神田遺跡調査区全体図

第2節 発見された遺構と遺物

第1号竪穴建物跡 (SI1、第6・7図)

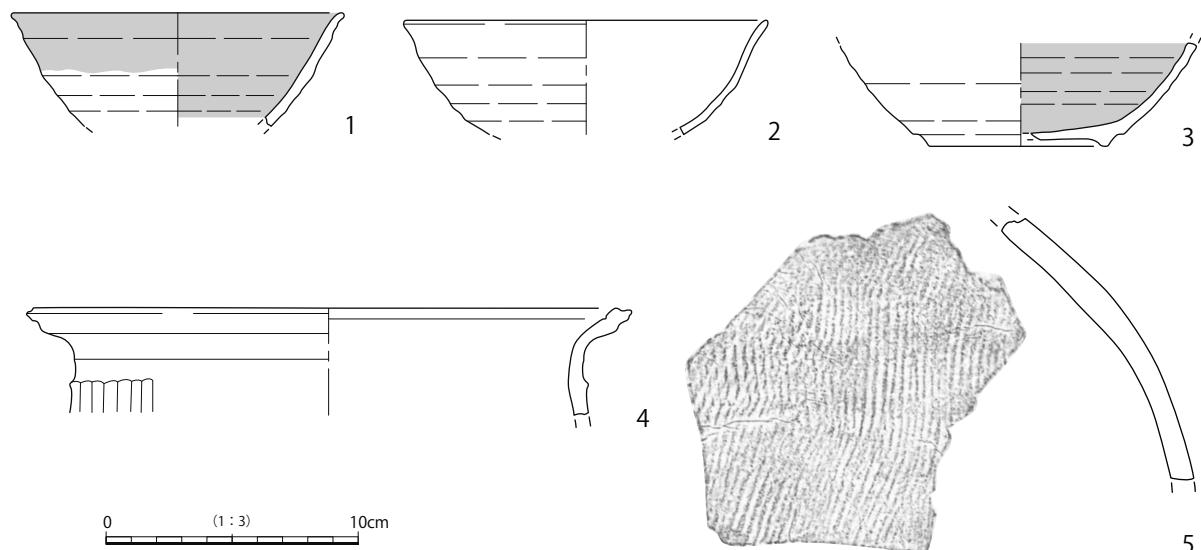


第6図 第1・2・3号竪穴建物跡・第1号土坑

位置 第1調査区中央北側に位置する。 **主軸** N-15°-E **規模** 部分的な検出のため詳細は不詳。西壁側は一辺遺存長約3.2mを測る。竪穴建物の南西部に当たり、全体の約3分の1を検出した。

壁 浅く、遺構確認面からほどんど掘り込みは確認できない。確認できる部分では深さ10cm程度を測り、緩やかに立ち上がる。**床** ほぼ平坦である。南壁から西壁にかけて幅20~25cm深さ約5cm程度の周溝が検出された。**ピット** 主柱穴は確認できなかった。周溝上に1か所約28×20cmの円形を呈するピット(P1)が検出された。緩やかに消滅する周溝に隣接し、部分的に深さ約20cmの別のピット(P2)があり、位置からは入口状施設の可能性がある。**カマド** 検出されていない。**遺物**(第7図、第3表) 少量だがすべて当建物に伴うものである。供膳具が内黒の土師器杯が中心で、鉢・甕類が須恵器である点から、9世紀後半から10世紀前葉にかけての一群と考えられる。

所見 出土遺物から平安時代の堅穴建物と考えられる。



第7図 前神田遺跡第1号堅穴建物跡出土遺物

第3表 前神田遺跡第1号堅穴建物跡 出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	胎土・色調・焼成	器形の特徴	技法の特徴	備考・出土地・残存率
1	土師器 内黒杯	A:(13.2) B:(4.5)	雲母多量、長石・石英を中量含む 外面:にぶい褐色(7.5YR5/4)、 内面:黒色(7.5YR2/1) 焼成良好	口縁部片。体部は内湾気味に立ち上がり、口唇部が若干外反する。	体部外面回転ナデ。 体部内面ミガキ。	内面及び口縁部 外面黒色処理。 口縁部20%
2	土師器 杯	A:(14.4) B:(4.5)	雲母多量、長石・石英を中量含む にぶい橙色(7.5YR6/4) 焼成良好	口縁部片。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は微かに反る。	体部外面回転ナデ。 体部内面ミガキ。 体部外面下端は手持ちヘラケズリ。	黒色処理は見られない。 口縁部25%
3	土師器 内黒高台付杯	B:(4.1) C:(7.0)	雲母多量、長石・石英を中量含む 外面橙色(5YR6/6)、内面黒色 (5YR1.7/1) 焼成良好	底部は平底。低い高台が付き、体部は内湾気味に立ち上がる。	底部回転ヘラケズリ。 付け高台。体部外面回転ナデ。 体部内面ミガキ。	内面黒色処理 床面出土 底部30%
4	須恵器 鉢類	A:(24.0) B:(4.2)	雲母多量、長石・石英を少量含む 灰色(5Y6/1) 焼成普通	口縁部片。垂直方向に外反し、厚みを増しながら口唇部に至る。口唇部上縁には「返り」のような粘土紐を付着させた隆帯が巡る。口唇部外面端部にはヨコナデを施し、微かに沈線状に凹む。	横ナデ。体部外面には条線タタキを密に施す。	口縁部5%
5	須恵器 甕	B:(13.5)	雲母多量、長石・石英を少量含む 外面:褐灰色(10YR6/1)、内面: にぶい黄褐色(10YR5/3) 焼成普通	体部片。屈曲を持ち、叩き目が密に施されることから肩部か。緩やかに内湾する。	体部外面条線叩き。 体部内面ユビナデ。 指頭痕残る。	体部破片 床面出土 体部5%

第2号竪穴建物跡 (SI2、第6図)

位置 第1調査区中央南側に位置する。東側のSI3とほぼ位置を同じくして重複し、本遺構の方が新しい。**主軸** N-°16-E **規模** 方形の竪穴建物の北東隅しか検出できていないため不詳である。

壁 確認面からの深さは40cm程度で、緩やかに立ち上がる。**床** 確認出来た範囲ではほぼ平坦で、周溝は検出されなかった。**ピット** 部分的な検出のため不詳。**カマド** 検出されていない。**覆土** 1層で構成される。**遺物** 出土していない。**所見** 出土遺物はないが、SI1との主軸がほぼ等しいことから平安時代の竪穴建物跡の可能性が高い。SI1との距離が約1mのため、同時には存在しにくい。

第3号竪穴建物跡 (SI3、第6図)

位置 第1調査区中央南側に位置する。西側のSI2とほぼ位置を同じくして重複し、本遺構の方が古い。SK1とも重複し本遺構が新しい。**主軸** N-18°-W **規模** 方形の竪穴建物の北東隅部しか検出できており、不詳である。

壁 確認面からの深さは約35cm程度で、急角度で立ち上がる。**床** 確認出来た範囲ではほぼ平坦で、周溝は検出されなかった。**ピット** 部分的な検出のため不詳。**カマド** 検出されていない。**覆土** 1層で構成される。**遺物** 出土していない。**所見** 出土遺物はないが、SI1との主軸がほぼ等しいことから、平安時代の竪穴建物跡の可能性が高い。SI1との距離が約1mのため、同時には存在しにくい。

第4号竪穴建物跡 (SI4、第8図)

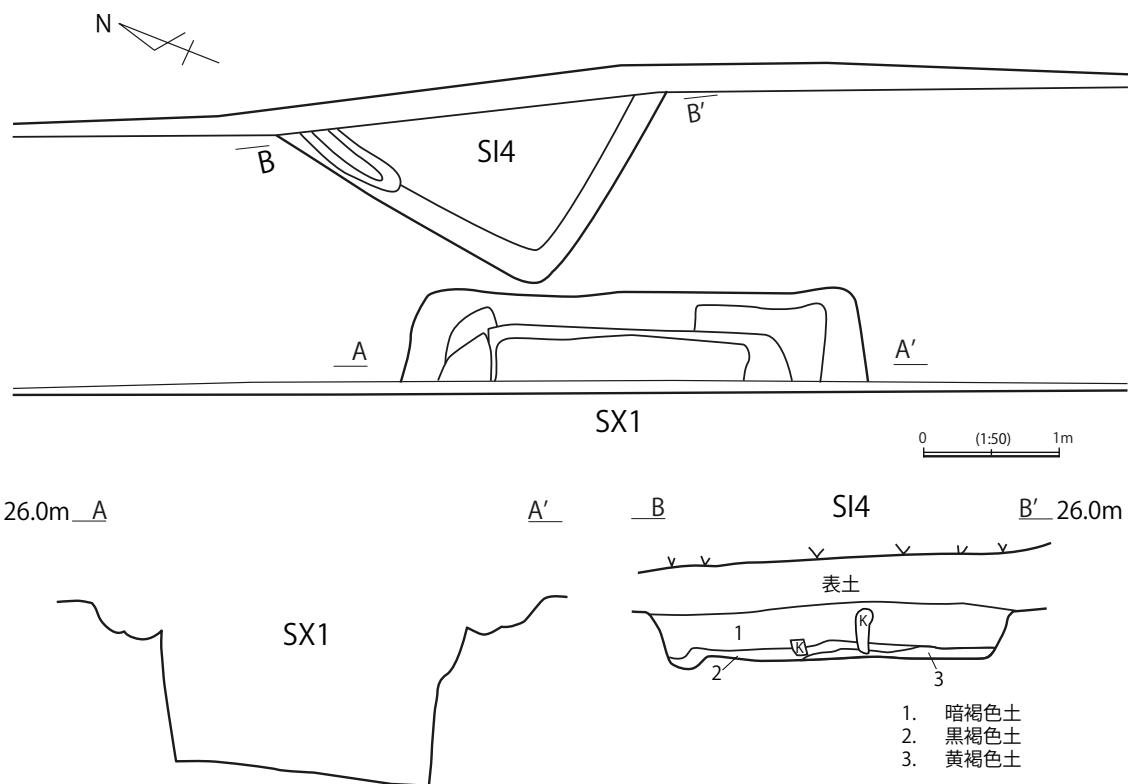
位置 2区中央北側に位置する。**主軸** N-11°-W **規模** 方形の竪穴建物の南東隅部しか検出できており、不詳である。**壁** 確認面からの深さは約35cmで、やや垂直気味に立ち上がる。**床** 確認出来た範囲ではほぼ平坦で、西壁の一部に周溝が検出された。**ピット** 部分的な検出のため不詳。**カマド** 検出されていない。**覆土** 3層で構成される。**遺物** 出土していない。**所見** 出土遺物はないが、SI1との主軸がほぼ等しいことから、平安時代の竪穴建物跡の可能性が高いと考えられる。

第1号掘立柱建物跡 (SB1、第9図)

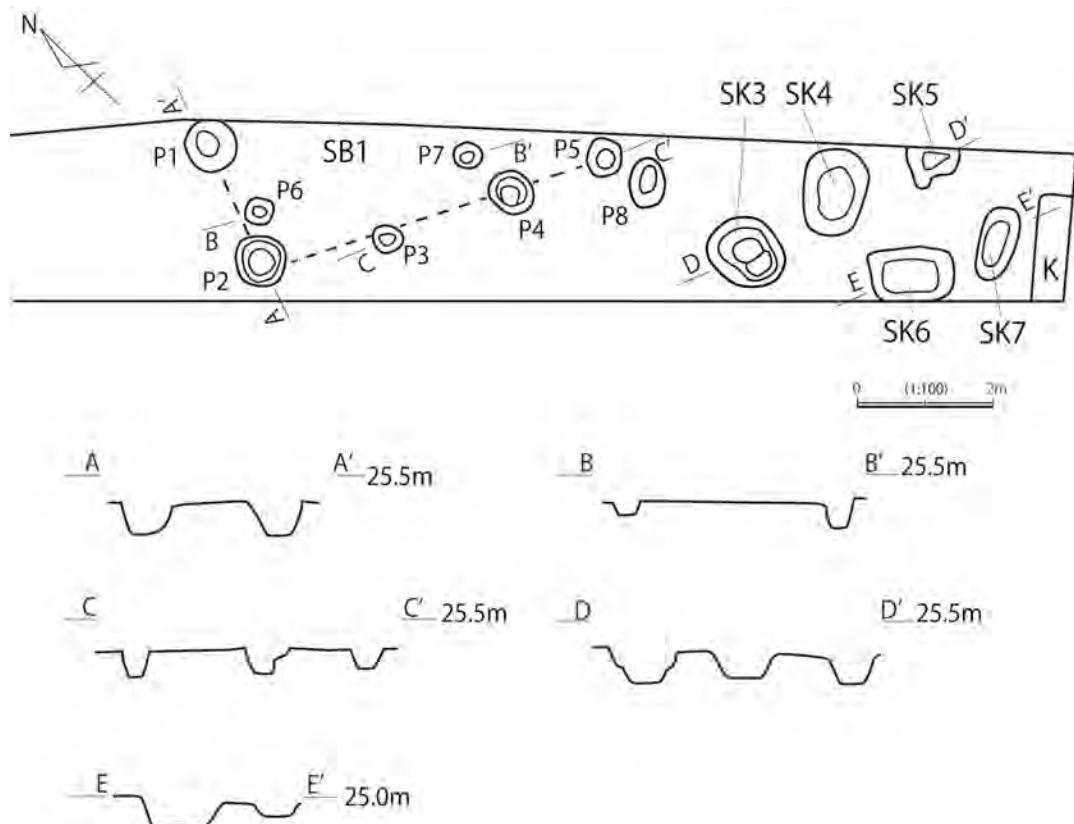
位置 第3調査区の東側に位置する。建物南西隅を部分的に検出したもので、北側の調査区外に残りの柱穴は展開していたと考えられる。**構造・規模** P1からP8が掘立柱建物に関連するものと考える。確認できた範囲で柱間は南北方向に1間(P1・P2)、東西方向に3間(P2～P5)の柱穴が連なる。2×3間以上の建物となる可能性があるが、部分的な検出のため不詳である。P6とP7、P8は、本建物に帰属する可能性もあるが、重複する別の掘立柱建物の可能性もある。**主軸方向** N-15°-W **遺物** 出土していない。**所見** 出土遺物はないが、西側の竪穴建物群との主軸がほぼ等しいことから、相互に関連性を有したと考えられる。平安時代の掘立柱建物の可能性が高いと考えられる。

第1号土坑 (SK1、第6図)

位置 第1調査区中央に位置し、SI3と重複する。当土坑が古い。**平面形・規模** 横幅30cm×遺存長40cm。橢円形状を示すが、半分以上がSI3に切られており不詳。掘り方のためか、確認面上で



第8図 第4号竪穴建物跡・第1号不明遺構

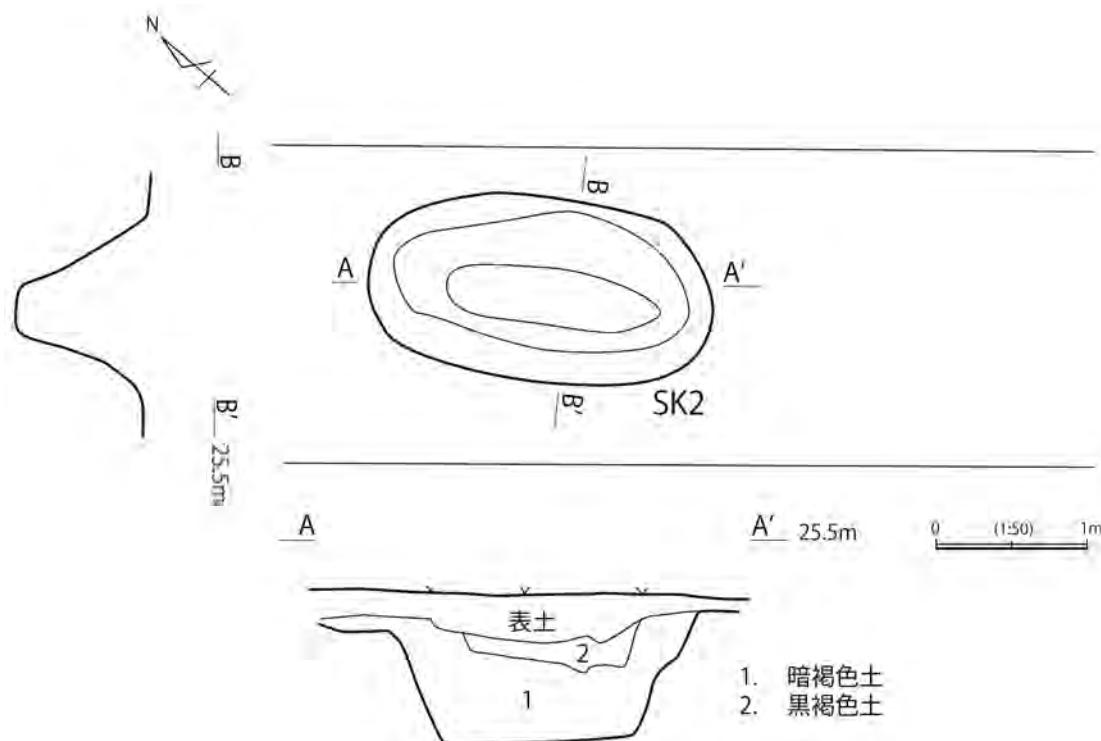


第9図 第1号掘立柱建物跡・土坑群

は外形が広がりをもつ。 **長軸方向** N-15°-W **遺物** 出土していない。 **所見** 当初SI3の付属施設または、建物掘り込み時の掘削と想定したが、形状から別の遺構でSI3より古い土坑と判断した。

第2号土坑 (SK2、第10図)

位置 第3調査区の西側に位置する。 **平面形・規模** 長楕円形を呈し、長径 230cm × 短径 123cm を測る。 **長軸方向** N-32°-W **壁面・底面** 壁面は急角度で立ち上がり、外反する。底面は長径 140cm × 短径 40cm を測り、細長い楕円形状を呈する。 **覆土** 2層に分類される。下層に行くに従い、土の色調は黄色味を増す。 **遺物** 出土していない。 **所見** 出土遺物はないが、形状から縄文時代の落とし穴の可能性がある。



第10図 第2号土坑

土坑群 (第9図)

第3調査区の東端では、SB1に隣接して第3号から第7号までの土坑群が発見された。部分的な検出のため、これらが掘立柱建物の柱穴となる可能性を否定できないが、ここでは以下土坑群として扱う。

第3号土坑 (SK3、第9図)

位置 第3調査区東端 **平面形・規模** 不整楕円形を呈し、長径 60cm × 短径 50cm を測る。 **壁面・底面** 壁面は段状を呈する。底面は2つの円形が重複した形状を呈する。 **遺物** 出土していない。 **所見** 時期不明。

第4号土坑（SK4、第9図）

位置 第3調査区の東端 **平面形・規模** 不整橢円形を呈し、長径68cm×短径42cmを測る。 **壁面・底面** 壁面は外反して立ち上がる。底面も不整橢円形状を呈する。 **遺物** 出土していない。 **所見** 時期不明。

第5号土坑（SK5、第9図）

位置 第3調査区東端 **平面形・規模** 不整形を呈し、北側半分は調査区外である。検出範囲で長径30cm×短径30cmを測る。 **壁面・底面** 壁面は外反して立ち上がる。 **遺物** 出土していない。 **所見** 時期不明。

第6号土坑（SK6、第9図）

位置 第3調査区の東端 **平面形・規模** 方形を呈し、長径60cm×短径48cmを測る。 **壁面・底面** 壁面は外反して立ち上がる。底面も方形を呈する。 **遺物** 出土していない。 **所見** 時期不明。

第7号土坑（SK7、第9図）

位置 第3調査区東端 **平面形・規模** 長橢円形を呈し、長径66cm×短径20cmを測る。 **壁面・底面** 壁面は浅く立ち上がる。底面も長橢円形状を呈する。 **遺物** 出土していない。 **所見** 時期不明。

第1号不明遺構（SX1、第8図）

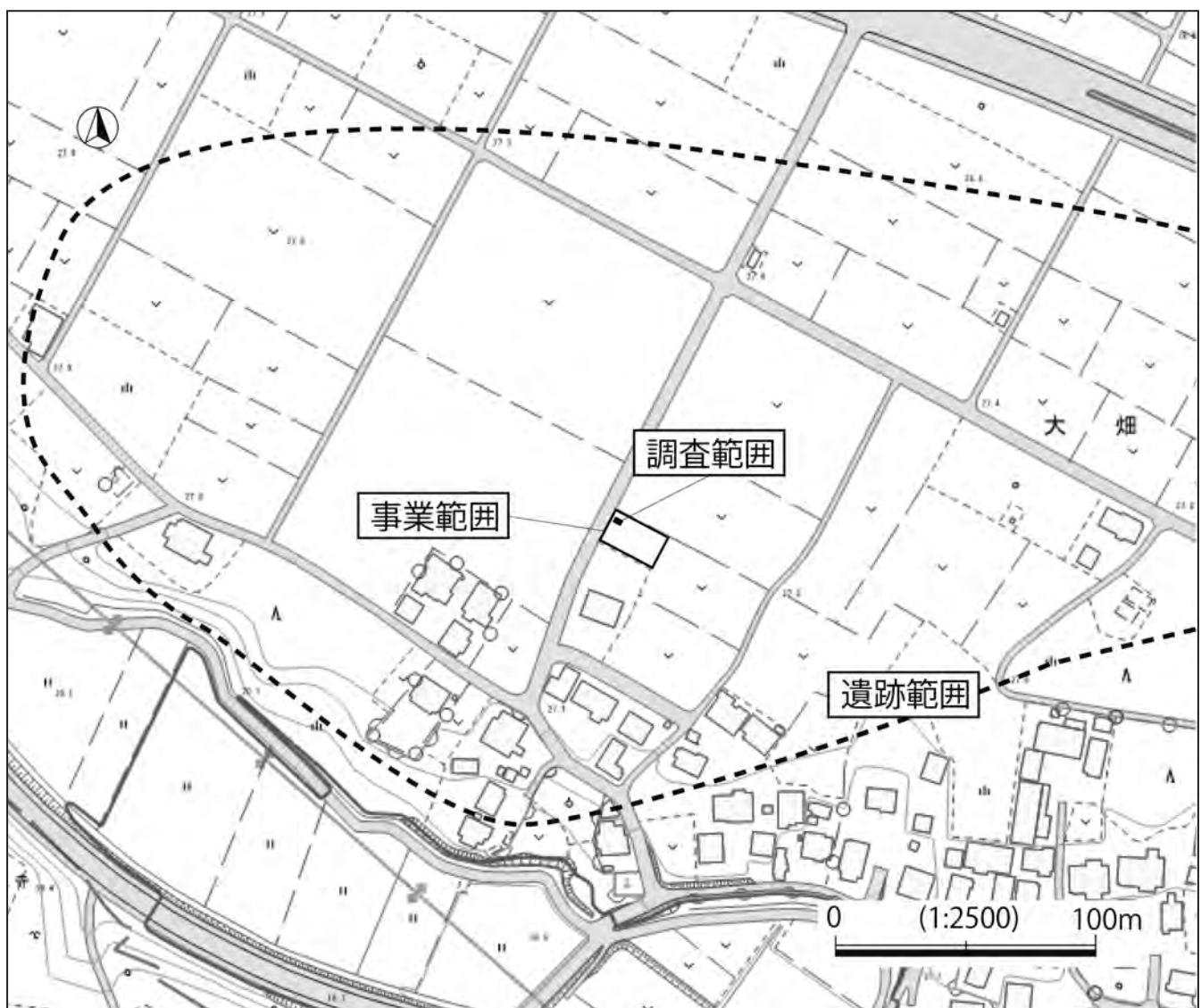
位置 第2調査区の南側、遺構の大部分は調査区外の南側にあるものと推定される。

平面形・規模 大部分が調査区外にあるため不詳である。遺存する範囲では長径340cm×短径70cmで、深さは確認面から下に150cm以上を測る。 **長軸方向** N-22°-W **壁面・底面** ほぼ垂直に立ち上がる。掘り方のためか、上方に近づくほど土坑の外縁が広がる。 **遺物** 出土していない。 **所見** 出土遺物がないため不詳である。想定されるものとしては、縄文時代の落とし穴または中世後半に多く見られる地下式坑の可能性がある。

第4章 大畠本田遺跡

第1節 調査の概要

本調査は個人住宅建築工事に伴うものである（第1章参照）。試掘確認調査で発見された埋蔵文化財のうち、建物基礎部分は保護層を設けることが可能となったが、合併浄化槽設置部分は掘削深度が深いため地下保存が困難との判断が下された。そのため、合併浄化槽設置範囲を調査区（1×2.5m）に設定し、記録保存目的の発掘調査を実施した（第12図）。表土除去は重機で行い、関東ローム層上面を遺構確認面とした。精査と遺構の発掘後、図化と写真撮影を行った。調査の結果、縄文時代中期の竪穴状遺構2基・土坑2基を検出した。



第11図 大畠本田遺跡調査区位置図（2,500分の1 土浦市都市計画図を利用）

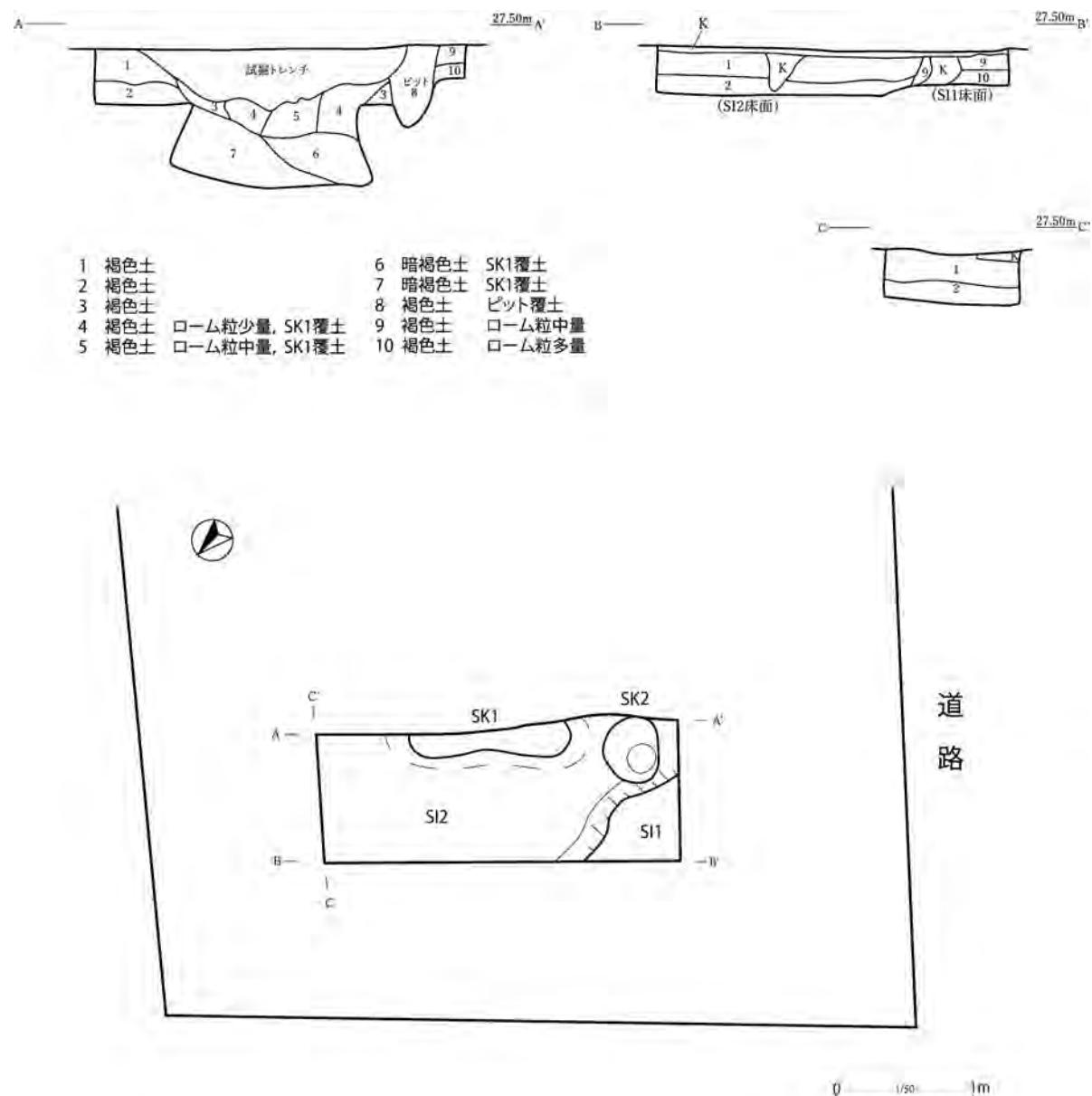
第2節 発見された遺構と遺物

調査で検出した竪穴状遺構2基と土坑2基を報告する。時代は土坑1基が時期不明、他は縄文時代中期である。

第1号竪穴状遺構 (SI1、第12図)

位置・規模等 調査区東隅、SI2よりも20cmほど高い位置にある。SI2に切られ、調査区が狭く部分的な検出に過ぎないため、詳細は不詳である。壁・炉・周溝・柱穴など付属施設は確認できない。

床 検出時に硬さをもっていたので床と判断した。ほぼ平坦である。 **覆土** 褐色土2層で構成される。SI2の覆土と比ベローム粒を含む。 **遺物** 出土していない。 **所見** 表土中や試掘確認調査時



第12図 大畠本田遺跡調査区全体図

に縄文時代中期の土器片が出土していることから、概期の竪穴建物跡と思われるが、部分的な検出のため竪穴状遺構として報告する。

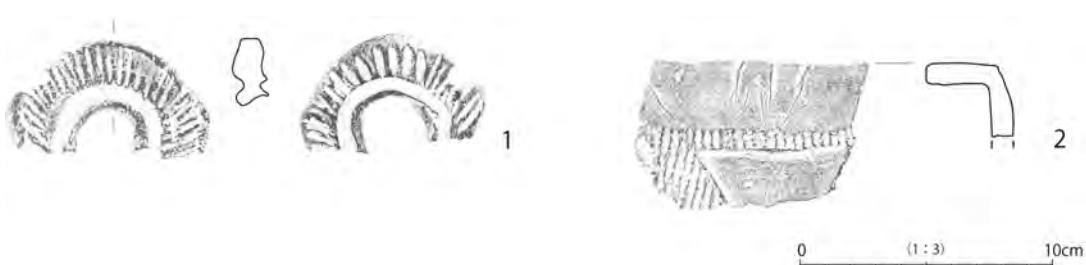
第2号竪穴状遺構 (SI2、第12図)

位置・規模等 調査区全体で検出される。SI1よりも低い位置にある。調査区が狭く部分的な検出のため、詳細は不詳である。壁・炉・柱穴など付属施設は確認できない。**床** 検出時に硬化面が確認されたため、床と判断した。ほぼ平坦である。**覆土** 褐色土2層で構成される。**遺物** 出土していない。**所見** 表土中や試掘確認調査時に縄文時代中期の土器片が出土していることから、概期の竪穴建物跡と思われるが、部分的な検出のため竪穴状遺構として報告する。

第1号土坑 (SK1、第12・13図)

位置 調査区南壁に接する。**平面形・規模** いわゆる袋状土坑である。平面では分からなかったが、土層断面の観察によりSI2よりも新しいと判断される。長楕円形を呈し、上面は長径120cm、短径は遺存長で25cmを測る。**壁面・底面** 底面から急角度ですぼまり、開口する。**覆土** 土層断面図中、3層～7層の4層に分類される。**遺物** 覆土中から縄文時代中期の土器片が出土している。

所見 縄文時代の土坑である。



第13図 大畠本田遺跡出土遺物

第4表 大畠本田遺跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	胎土・色調・焼成	器形の特徴	技法の特徴	備考・出土地・残存率
1	縄文土器 深鉢	縦:(4.8) 横:(7.7)	雲母極めて多く、長石・石英を中量含む にぶい赤褐色(5YR5/4) 焼成良好	深鉢の口縁部に付属する、装飾上の突帯の破片と推定される。	両面に短い沈線による刻目を施し、内側には沈線が巡る。表裏対照的に文様は施される。	SK1出土 口縁部片5%
2	縄文土器 深鉢	縦:(2.9) 横:(8.4)	雲母・長石・石英を多量に含む 外面:にぶい褐色(7.5YR5/3) 内面:黒色(7.5YR2/1) 焼成良好	円形の深鉢の口縁部で、内側に向かってほぼ直角に屈曲する。	口縁部は無文。屈曲部直下より縄文を施し、内部に浅い沈線に囲われた無文帯を有する。	調査区内出土 口縁部片5%

第2号土坑 (SK2、第12図)

位置 調査区の南東隅に位置する。**平面形・規模** 小型楕円形状のピット(柱穴)状を呈する。長径50cm×短径40cmを測る。**遺物** 出土していない。**所見** 時期不明の土坑だが、柱穴の可能性もある。

第5章 総括

前神田遺跡は都市計画道路の改良工事に伴う調査で、道路幅拡幅が2m以上の箇所に調査区を限定しての調査となった。平安時代前期末から中期初めにかけての集落跡で、本市では、おおつ野の田村沖宿遺跡群、中の扇ノ台遺跡、上高津新町の寄居遺跡などに同様の事例が見いだされる。本遺跡では、竪穴建物でも掘立柱建物でも建物群の軸が類似していることから相互に関連性をもっていた、換言するとほぼ同時期に存在していた可能性が高いと考えられる。非常に狭い調査範囲のためこれ以上の詳細は詳らかにできないが、今後周辺地域の調査事例が増えることに期待したい。

大畠本田遺跡の発掘調査も、個人住宅敷地内部の合併浄化槽部分のみを調査対象とする非常に小規模な調査で、縄文時代中期の遺構が確認された。遺跡の現地踏査では、縄文土器の破片が大量に散布し、大型の石皿が路地にあらわになるなど、大規模な集落の存在を予見させる遺跡であった。市内でも桜ヶ丘町の六十原遺跡・六十原A遺跡、右糀の宮前遺跡、神立町の神立遺跡など遺構の重複が激しく、土器の出土が大量にあることが共通している。試掘確認調査でも大量の縄文中期の土器と竪穴建物が発見されている。新治地区は面積に比して遺跡の数が多く、窯跡や経塚などその種類も多種多様である。今後も引き続き、新資料や新知見の獲得に努めたい。

最後になりますが、本市の文化財保護にご協力をいただいている関係各位、および本調査や本報告にいたるまで様々な協力をいただいた皆様に心より感謝を申し上げます。

写 真 図 版

PL1 前神田遺跡発掘調査（1）



第1調査区完掘状況



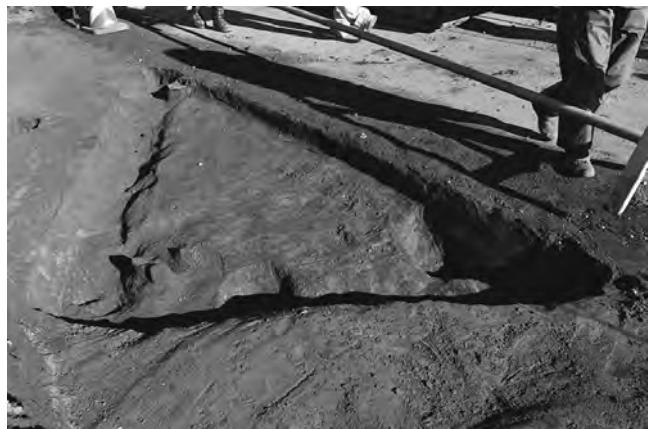
SI2・3、SK1 完掘状況



SI1 完掘状況



第2調査区完掘状況



SI4 完掘状況

PL2 前神田遺跡発掘調査（2）



第3調査区完掘状況（西から）



SX1 完掘状況



第3調査区完掘状況（東から）



SK2 完掘状況

PL3 大畠本田遺跡 発掘調査



大畠本田遺跡 調査区完掘状況

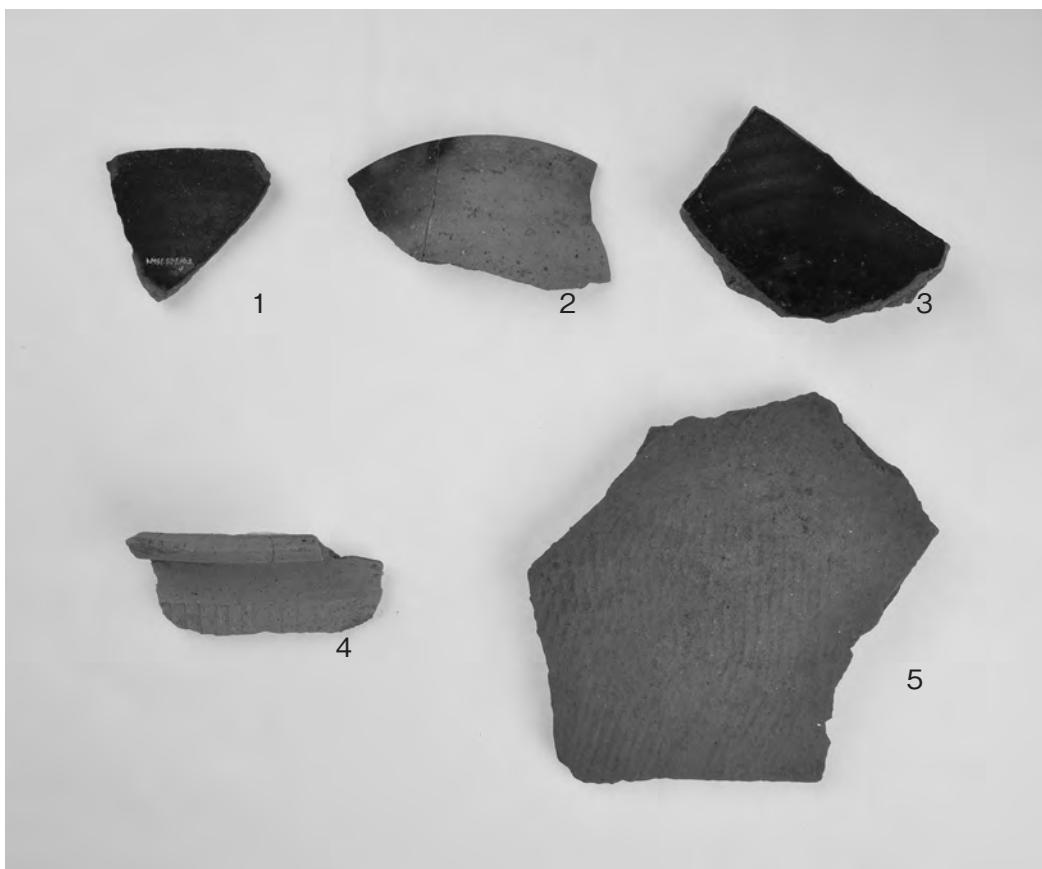


土坑・竪穴建物検出状況



調査風景

PL4 前神田遺跡・大畠本田遺跡出土遺物



前神田遺跡出土遺物



大畠本田遺跡出土遺物

抄 錄

ふりがな	まえしんでんいせき・おおばたけほんでんいせき											
書名	前神田遺跡・大畠本田遺跡											
副書名	令和2年度 市内遺跡発掘調査報告書											
編集者名	比毛君男	著者名	比毛君男・淺野孝利									
編集機関	上高津貝塚ふるさと歴史の広場											
所在地	〒300-0811 茨城県土浦市上高津 1843 TEL 029-826-7111											
発行機関	土浦市教育委員会											
所在地	〒300-0036 茨城県土浦市大和町9番2号 TEL 029-826-1111 (代表)											
発行年月日	西暦2023年(令和5年)3月31日											
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査 原因				
まえしんでんいせき 前神田遺跡	つちうらし 土浦市 かんだつまち 神立町 2590-2 他	203	194	36° 06' 35"	140° 13' 27"	2020年 12月3日 ~12月15日	117m ²	市道改良工 事				
おおばたけほんでんいせき 大畠本田遺跡	つちうらし 土浦市 おおばたけほんでんいせき 大畠字大畠 829-3	465	128	36° 07' 41"	140° 09' 37"	2021年 3月23日 ~3月27日	4m ²	個人住宅建 築工事				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項							
前神田遺跡	集落跡	平安時代	竪穴建物跡4棟 土坑6基 掘立柱建物跡1棟 不明遺構1基	土師器 須恵器	平安時代の集落跡。 土坑は縄文時代の落とし穴の可能性がある。							
大畠本田遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴建物跡2棟 土坑2基	縄文土器	縄文時代中期を主とする集落跡。							

前神田遺跡・大畠本田遺跡
—令和2年度 市内遺跡発掘調査報告書—

発行日 令和5年3月31日
編集 上高津貝塚ふるさと歴史の広場
〒300-0811 茨城県土浦市上高津1843
TEL 029-826-7111
発行 土浦市教育委員会
〒300-0036 茨城県土浦市大和町9番2号
TEL 029-826-1111（代表）
印刷 株式会社いなもと印刷
